

報道関係各位

2025 年 2 月 吉日

「つくるよろこび 生きるための DIY」7 月 24 日より東京都美術館で開催！
誰もが持つ創造性に目を向け自分なりの方法で「よりよく生きる」ことを考える
DIY (Do It Yourself/自分でやってみる)の展覧会。

つくるよろこび 生きるための DIY

Pleasure in Making:
The Creative Spirit
of DIY for Living

DIY の手法や考え方に関心を寄せる、5 組の現代作家と 2 組の建築家を紹介します。
＜会期：2025 年 7 月 24 日（木）～10 月 8 日（水）＞

DIY (Do It Yourself /自分でやってみる) とは、目の前の問題を自分自身の工夫で解決していくアプローチのことです。日曜大工や住民主体のまちづくりなど、私たちの身近な場面で実践されています。DIY はより良く生きるための方法であると同時に、不便や困難を乗り越えるための手段でもあります。その過程では、自ら手を動かすことで得られる気づきや達成感といった「つくるよろこび」も味わえるのではないのでしょうか。

本展では、DIY の手法や考え方に関心を寄せる、5 組の現代作家と 2 組の建築家を紹介します。身の回りのものでつくる作品や、多様な人が関わる場のデザインに加え、震災や経済的な事情により何もない場所に立たされた人々の切実な営みにも焦点を当てます。本展を通じて、自分なりの方法と感覚を頼りにつくる DIY と「生きること」のつながりを考えるきっかけになれば幸いです。

出品作家（展示順）：若木くるみ、瀬尾夏美、野口健吾、ダンヒル&オブライエン、久村卓、
伊藤聡宏設計考作所、スタジオメガネ建築設計事務所

みどころ

DIY をテーマに「つくるよろこび」に迫る展覧会

アーティスト、建築家、路上生活者、災禍を経験した人々——それぞれの DIY の実践を通じて、誰もが持つ創造性と生きることのつながりを探ります。

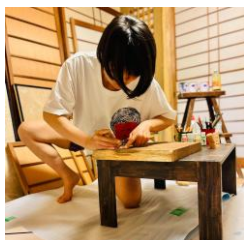
5 組の現代作家と 2 組の建築家による多彩な作品

DIY の手法や考え方に関心を寄せる 7 組の出品作家が、版画、ドローイング、言葉、写真、映像、インスタレーションなど、多様な表現で空間をつくりあげます。

参加型作品の展示

DIY について考え、実際に手を動かして体験できる参加型の作品も展示。
見るだけでなく、つくる・話す・考えることで展覧会を楽しめます。



作家紹介（展示順）
若木くるみ WAKAKI Kurumi


1985 年北海道生まれ。京都市立芸術大学で木版画を専攻。卒業後、版画という技法を拡張し、自らの身体を版として用いるインスタレーションやパフォーマンス作品など、多様な表現を展開する。2009 年には岡本太郎現代芸術賞を史上最年少で受賞。近年は、版画ならではの「摺る」という行為に立ち返り、空き缶や歯磨き粉のチューブなど、日用品を版として再利用する作品を手がけている。本展では、主に作家自身の自宅にある物を使い、身近な素材から新しいイメージを生み出す実験的な版画作品を発表する。



若木くるみ
 《キャンベルスープ》
 2024 年 空き缶を用いた版画 作家蔵



若木くるみ
 《チューブの開き 水蟹 2》（版と制作風景）
 2024 年 チューブを用いた版画 作家蔵

瀬尾夏美 SEO Natsumi


写真：Hiroshi Ikeda

1988 年東京都生まれ。土地の人びとの言葉と風景の記録を考えながら、絵や文章をつくっている。2011 年、東日本大震災のボランティアを契機に、映像作家の小森はるかとのユニットで制作を開始。2012 年から 3 年間、岩手県陸前高田市で暮らしながら、対話の場づくりや作品制作を行なう。2015 年、宮城県仙台市で土地との協働を通じた記録活動をするコレクティブ「NOOK（のおく）」を立ちあげる。現在は江東区で「studio04」を運営しながら、過去の災禍の記録のリサーチし、それらを活用した表現を模索する協働プロジェクト「カロクリサイクル」も手がける。本展では、災禍の記憶を胸に生きる人々の営みを捉えたドローイング、絵画、文章などを展示する。



瀬尾夏美 《地底に咲く》
 2015 年 ドローイング 作家蔵



瀬尾夏美 《二重のまち》
 2015 年 ドローイング 作家蔵

野口健吾 NOGUCHI Kengo



1984 年神奈川県生まれ。写真家。東京藝術大学大学院美術研究科を修了後、路上生活者、バックパッカー、巡礼者、インドのチベット難民、ネパール地震に直面した辺境の村家族など、多様な人々を撮影しながら、写真・映像作品を制作している。本展では、日本の都市の片隅で生きる人々の姿を捉えた「庵の人々」シリーズを展示する。創意工夫により生活を築く庵主たちの人間模様とともに、ブルーシートや廃材など身近な素材を組み合わせ、DIY 的につくられた庵の様相に焦点を当てる。



野口健吾

《庵の人々 神奈川県横浜市港北区》
2012 年 写真 作家蔵



野口健吾

《庵の人々 東京都渋谷区》
2011 年 写真 作家蔵

ダンヒル&オブライエン Dunhill and O'Brien



写真：Andrew Watson

ロンドンを拠点とするマーク・ダンヒルとタミコ・オブライエンは、1998 年からアーティスト・デュオとして共同制作を行う。二人は、個々の好みや従来の彫刻制作に伴う複雑な工程にとらわれることなく、協働の難しさと可能性を創造の糧とし、思いがけない発見をもたらしながら表現活動を展開する。独自の装置を作ったり、パフォーマンスや他者との共同作業を取り入れたりしながら作品を生み出している。本展では、彫刻と DIY の垣根を超え、複数のセクションで構成されるインスタレーションを制作する。



ダンヒル&オブライエン

《Apparatus: Moore's Mallet V1》
2024 年 作家蔵



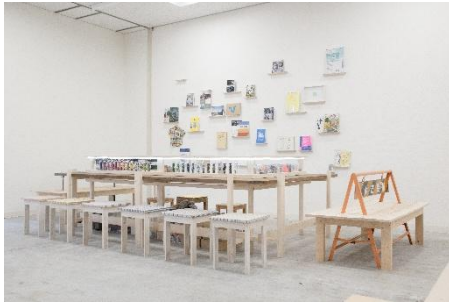
ダンヒル&オブライエン

《STONE APPRECIATION》（部分）
2018 年 作家蔵

久村卓 HISAMURA Taku



1977 年東京都生まれ。多摩美術大学彫刻学科卒業。ヘルニア発症がきっかけとなり、心身ともに軽さを重視した制作を模索する中で、ハンドメイドから DIY クラフトまで、美術の周縁に位置する技法や素材を積極的に採用するようになる。控え目な手つきで変化を生み出しながら、従来の美術制度の枠組みを問いかけるような作品を制作している。本展では、手芸による「着られる彫刻」や、既製品を装飾として取り込んだレディメイドの手法で制作されたベンチなどを展示する。



久村卓

《刺繍 BAR / 織物 BAR at 藝大部屋》

2024 年 インスタレーション 作家蔵



久村卓

《PLUS_captain's dark blue work pants》

2024 年 作業着にパッチワーク 作家蔵

伊藤聡宏設計考作所 Akihiro Ito Architects



イラスト：Yuko Ohara

一級建築設計事務所。長野県を拠点とし、空き家の調査・利活用、地場の職人技術（漆芸・木工など）の紹介、手工芸品の製作、農作物や消費材の自給生産など、建築を軸に地域の環境風土や暮らしに新たな関係性をつくる幅広い活動を行っている。主な活動に「誰でもできる建築教室」、「麻太の家」、「奈良井とおいち」などが挙げられる。本展では、多摩市を拠点に活動するスタジオメガネ建築設計事務所と協働し、来場者がそれぞれに本展のテーマについて考えるためのプラットフォームを構想する。



誰でもできる建築教室の様子



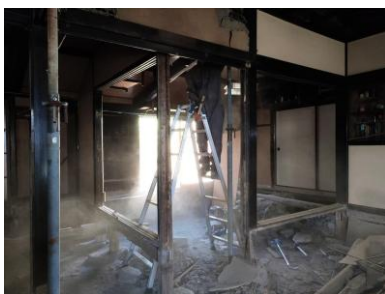
とおいちギャラリー（奈良井宿）



一級建築設計事務所。多摩ニュータウンの商店街に事務所を構える。設計事務所を地域に開き、アートやデザインに従事する人々並びに地域住民と共に、多様な人が関われるオルタナティブ空間「STOA」を自主運営している。地域に開かれた文化の発信拠点を目指す STOA は、未完成のままに地域と反応しながら変化することを大切にしている。また、消費を目的とせず、訪れる人が思想に耽ることができる場を目指している。本展では、長野県を拠点に活動する伊藤聡宏設計考作所と協働し、来場者がそれぞれに本展のテーマについて考えるためのプラットフォームを構想する。



STOA の活動風景（多摩市）



小豆島に展開する STOA の改修風景

開催概要

●**展覧会名** つくるよろこび 生きるための DIY

●**会期** 2025 年 7 月 24 日（木）～10 月 8 日（水）

●**会場** 東京都美術館 ギャラリー A・B・C

●**休室日** 月曜日、9 月 16 日（火）

※ただし、8 月 11 日（月・祝）、9 月 15 日（月・祝）、9 月 22 日（月）は開室

●**開室時間** 9:30～17:30、金曜日は 9:30～20:00 *入室は閉室の 30 分前まで

●**観覧料** 一般 1,100 円 / 大学生・専門学校生 700 円 / 65 歳以上 800 円

※18 歳以下、高校生以下無料。※身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその付添いの方（1 名まで）は無料。※18 歳以下の方、高校生、大学生、専門学校生、65 歳以上の方、各種お手帳をお持ちの方は、いずれも証明できるものをご提示ください。※事前予約は不要。ただし、混雑時に入場制限を行う場合があります。※同時期開催の特別展「ゴッホ展 家族がつないだ画家の夢」のチケット提示にて、各料金より 300 円引き。※都内の小学・中学・高校生ならびにこれらに準ずる者とその引率の教員が学校教育活動として観覧するときは無料（事前申請が必要）

●**主催** 東京都美術館（公益財団法人東京都歴史文化財団）

●**助成** 大和日英基金

●**問合せ先** 東京都美術館 03-3823-6921

最新情報は**展覧会公式サイト**をご覧ください <https://www.tobikan.jp/diy>

展覧会をご紹介いただける場合は、下記の画像申請用 URL より、広報用画像をご活用ください。

広報用画像申請用 URL：<https://tobikan.jp/plate/14>

【注意事項】

- ・ 会期中に本展をご紹介いただける場合のみ、必要事項を記載の上、画像をダウンロードいただけます。
- ・ 作品クレジットを必ず入れてください。作品画像のトリミングや文字のせはできません。
- ・ 校正ゲラ等の確認が必要です。press@tobikan.jp に必ず掲載前にお送りください。



展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用の無料観覧券（5組10名様）をお送りいたします。

「媒体名」「掲載時期」「送付先（郵便番号・住所・会社名・担当者名）」を press@tobikan.jp にお送りください。発送は7月上旬以降を予定しております

報道関係のお問い合わせ先

東京都美術館広報担当 press@tobikan.jp 03-3823-6921